

項目	内容
①1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿	<p>新学習指導要領では、各教科等の指導を通じて育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で再整理されている。この実現に向けて「主体的・対話的で深い学び」を授業の中で展開することが求められ、この深い学びにつなげるための能力の一つとして情報活用能力があげられている。このような中で、須坂市では1人1台端末の配備により、子ども一人ひとりの習熟の程度に応じた学習、協働的な学習活動の一層の充実、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善、教育環境のアップデートを図り、1人1台端末を活用した「新たな学び」と持続可能な学校システムの構築を目的に、これまで以上に多様性を尊重しつつ、ICTを活用しながら、学校ならではの協働的な学び合いや、実社会と関わる課題を社会との関わりの中から解決する探究的な学びを大切にした「須坂市の学び」の実現を目指す。</p>
②GIGA第1期の総括	<p>GIGA第1期では、1人1台端末及び校内ネットワーク環境の整備を行うとともに、学習デジタルドリル、デジタル教材、学習者用デジタル教科書等を導入し、教育委員会と教職員により構成される「GIGAスクール推進委員会」の設置や、専門知識を有したICT支援員を配置し、ICTを活用した授業の推進・研究を進め、GIGAスクール構想の推進を図ってきた。これにより、ICTを取り入れた学習活動は広がったものの、後半は端末の破損や不具合が多発し、1人1台端末を用いた学習活動等に支障をきたしてしまった。第2期に向け、落下等による衝撃に強い機種や付属品を選定するとともに、予備機を潤沢に確保し、子どもたちのICT学習活動をとめない環境を整える。</p>
③1人1台端末の利活用方策	<p>【1人1台端末の活用】 1人1台端末環境の継続的な維持を目的に、ICT 支援員の配置を継続し、ICT活用の各種支援や授業実践事例等の蓄積・情報共有や研修会を行い、端末の積極的な利活用を推進する。</p> <p>【個別最適・協働的な学びの一体的な充実】 これまでも行ってきた学習支援ソフトを活用した授業に加え、引き続き継続導入していく。AI型デジタルドリルや授業支援ソフトウェア等を校内及び家庭学習で活用することにより、学習履歴(スタディ・ログ)など教育データを活用した個別最適な学びを充実させる。また、学校の仲間との「調べる」「発表・表現する」「やりとりする」という授業場面に応じた端末の活用を進め、個別最適・協働的な一体的な学びの充実を図る。</p> <p>【学びの保障(臨時休業等の緊急時・不登校対策・特別支援教育・外国人児童生徒)】 学校において、「誰一人取り残さない学びの保障」に向けて、不登校等により、長期欠席をする児童・生徒に対して授業配信等の検討を行い、GIGA第2期においても、日常の授業で端末を効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童・生徒に対する支援として、多様な場面でICTを活用していく。</p>